

## 解答または解答例及び出題意図

年度	2026 年度
研究科	教育学研究科
専攻・コース等	教育学専攻
試験科目	専門科目

### I 期

#### 共通問題

出題された英文は、小原國芳『全人教育論(改版)』(玉川大学出版部)に基づく。入試要項において本書は指定図書として明記され、事前に確認しておくことが指示されている。本問では、その前提に立ち、本文の内容を的確に理解しているかが問われる。

(1) 英文和訳が適切になされているかが評価基準となる。参考として指定図書の当該箇所(日本語原文)は次の通りである。「人に心身両方面を認めます。身体のためには生命保存と精神活動の源泉たるべき健康を要求します。すなわち健なる価値を要求します。だが、健価値は何といっても手段価値です。出来るだけ永続的に絶大なる精神活動の出来得る原動力を供給するところにその意味があると思います。しかも、これは決して身体を蔑視する意味ではなく、不可欠の手段として認めているのです。ただ単に生きているということ、ただ単に力強いということそれ自身には意味を見出し得ないのです。」

(2) 下線部の要求を叶える教育は「健康教育」として展開されている。「健康教育」では「強靱なる体力」「長い生命」「調和せる身体」「巧緻性」を目的として、生理学的知識、基礎としての体操(デンマーク体操による基本体操、整美体操、巧緻体操)、各種のスポーツや武道も取り入れられている。このことが指定図書の内容に即して説明されているかが評価基準となる。

#### 選択問題

##### ●教育学研究・初等教育研究・教師教育学研究コース

[設問]

1. (出題意図と解答例) 道徳的自由を消極的自由と積極的自由の2点から適切に説明できているかが評価基準となる。消極的自由は、動物と異なり自らの本能や欲望に逆らう意志、すなわち欲望から拘束を受けない意志を有していること(カントのいう自然因果律からの独立)を意味している。また、積極的自由は消極的自由が他律的・受動的な意志規定であるのに対し、自ら立てた規範(格率)に従う自己立法による能動的な意志規定を意味している。なお、入試要項には、『教育原理(改訂第2版)』(玉川大学出版部)が推薦図書として明記されており、事前に確認しておくことが推奨されている。

2. 本設問は、主体的な学びの意味を「動機づけ」の観点から理解しているかを問うものである。外発的動機づけと内発的動機づけの違いを踏まえ、学習者が自ら目標や価値を見出

し、積極的に学習に取り組む過程や関係を説明できるかを評価する。単なる定義の記述にとどまらず、主体性と動機づけの関係を子どもの具体的事例に関連付けて述べているとよい。

3. (解答例) 就学前教育制度は、幼稚園、保育所、認定こども園と三元化している。2023年に保育所と認定こども園はこども家庭庁が所管するようになったが、幼稚園は文部科学省の所管である。小学校には多様な就学前施設から子供たちが入学している。「架け橋委員会」で指摘されているように、アプローチ・カリキュラムやスタート・カリキュラムのように、両者をなだらかに接続するための工夫が必要である。(詳細略) (出題意図) 推薦図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。学校間接続は今日の重要な教育課題の1つである。

4. (解答例) ①1947・1951年版は経験主義・児童中心主義を、②1958・1968年版は系統主義、学問中心カリキュラムを、③1977・1989・1998年版はゆとり教育を、④2008・2017年版は新しい能力観(コンピテンシー)を、それぞれ中心にすえている。①は注入主義であった戦前の反省から生まれた。しかし時代が高度経済成長期に入ると、知識量が重視されるようになり(②)、「落ちこぼれ」が課題となり、ゆとり教育の時代(③)へと移った。しかし新しい能力観は主体的に学ぶこと、対話的に学ぶことの両者を統合することを目指している。(詳細略) (出題意図) 推薦図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。推薦図書では4つの時代に区分して整理をしている。

5. (出題意図と解答例) 教育方法に関する著名な理論や実践に関する理解と、その理解を現在のわが国の教育を捉える視点として活用できるかを問う問題である。「分団式教育」とは、教師が個々の子どもの習熟度や興味関心の際などに応じて臨機応変に一時的な分団を作ってそれぞれの状態に合わせた指導を行うことである。「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿」の柱の一つとして位置付けられている「個別最適な学び」は、及川が推進しようとした「分団式教育」を子ども(学習者)の視点から整理した概念であり、現在の日本の学校教育でも重視されている。

6. (解答例) 公立学校の教員は地方公務員、国立大学法人附属学校及び私立学校は民間企業と同様という違いがある。公立学校教員は、地方公務員法及び教育公務員特例法等に規定された身分上の義務、職務上の義務等がある。(詳細は略) 一方、国立大学法人の学校及び私立学校の教員は、一般企業と同様の身分である。ただし、教育基本法等で研修の義務等が課されている。(詳細略) (出題意図) 属する学校の違いにより、権利義務関係が異なることが理解できているか、また、公立学校教員の権利義務を理解しているかを確認する内容である。

7. (出題意図) 本研究科のアドミッションポリシーの特に2の(7)にある国際バカロレアの教育の領域について教育学研究の基盤となる基礎的知識を持ち、これまでの既習事項や経験を活用しながら論じる出題への解答を通して、学修に臨むための知識・能力を評価するための出題である。(解答例) 『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実際—不確実な時代を生き抜く力』にはこれまでの2次元的授業の考え方を超えて、リン・エリクソ

ンの3次元的授業が説明されている。この考えに基づく授業の設計図は教師が教える授業から児童生徒が理解する授業を目指すものである。理解を促す授業では概念レンズと問いが重要であり、学習者が自ら考えることを促す意味で主体的な学びの形のひとつであるといえるのではないだろうか。

### ●乳幼児教育学研究コース

[設問]

1. 本設問は、レッジョ・エミリア教育における「聴き入ること」の教育の意義を理解し、保育者の基本的姿勢として捉えられているかを問うものである。子どもの表現や考え(百のことば)を尊重し、対話的關係の中で意味を子どもと共に生成していく姿勢を説明できるかを評価する。抽象的理解にとどまらず、保育実践に即して具体的に論じる力を重視する。
2. 本設問は、『保育原理』第3章「保育内容」に基づいて出題されたものである。様々な回答の仕方があるが、本書では特に、「育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)の観点を示された点に、大きな特徴がみられる。そのため、この2点を説明することが求められている。また、保育所保育指針等では、「乳児保育」「1歳以上3歳未満児の保育」「3歳以上児の保育」というように、子どもの発達段階に即して保育内容が記載された点も特徴として挙げられるので、その点について触れるのもよい。
3. 愛着障害と虐待がどのように関連しているかについて、明確にする必要がある。通常親といる時には乳幼児は安心な状態が維持されているが、虐待の状態は不安定なるだけでなく、トラウマを引き起こすような状態になる可能性がある。発達障害と虐待の関連など、この問題についても明確化する必要がある。PTSDの問題や親の虐待に対する連鎖を断ち切ることについての課題も明らかにすることも求められる。愛着障害への社会的対応など、本課題解決の糸口についても説明することが必要である。

## Ⅱ期

### 共通問題

(出題意図と解答例)出題された英文は、小原國芳『全人教育論(改版)』(玉川大学出版部)に基づく。入試要項において本書は指定図書として明記され、事前に確認しておくことが指示されている。本問では、その前提に立ち、本文の内容を的確に理解しているかが問われる。

(1) 英文和訳が適切になされているかが評価基準となる。参考として指定図書の当該箇所(日本語原文)は次の通りである。「そもそも、教育教授の態度はまず、二つに分かれます。teach するか、study させるかです。教授するか学習させるかです。与えるのか掴ますのかです。記憶や詰め込みを主とするか創意工夫を主とするかです。いうまでもなく、与える give する教育よりも、つかませる catch させる教育が尊いのです。教え込む teach する教師は下です。学習させる教師、study させる教師でありたいのです。」

(2) 下線部の主張にみる小原國芳の全人教育論は、教育史上、19 世紀末から 20 世紀初頭(とりわけ 1920 年代)に隆盛を極めた新教育運動に位置づけられることが、新教育と旧教育の対比を含めて適切に説明できているかが評価基準となる。

### 選択問題

#### ●教育学研究・初等教育研究・教師教育学研究コース

[設問]

1. (出題意図と解答例) 近代公教育を特徴づける「教育の義務性」「無償性」「世俗性(中立性)」について、適切に説明できているかが評価基準となる。教育の義務性と無償性とは、子どもの教育を家庭教育のみに委ねた場合、教育を受ける権利が十分に保障されない危険があることから、公権力がすべての子どもに対して教育機会を平等に保障するため、無償による義務教育制度を整備したことを意味している。また、教育の世俗性(中立性)とは、個々人の信教の自由を保障するために、公教育が特定の宗教や宗派に偏ることなく、非宗派的・中立的な立場を維持することを意味している。なお、入試要項には、『教育原理(改訂第2版)』(玉川大学出版部)が推薦図書として明記されており、事前に確認しておくことが推奨されている。

2. 本設問は、「学習」と「学び」という類似概念の違いを指定テキストに書かれていることを参考に検討したかを問うものである。前者を外的条件に基づく知識・技能の獲得過程、目標を必要とするもの、後者を主体的・意味生成的な経験、目標を必要としないものとして捉えられるかを評価する。さらに、具体的な場面を示しながら両者の特性を対比的に説明しているかによって、学びをめぐっての理解の深さを評価する。

3. (解答例) 教育行政とは、学術的に定まった定義はない。教育行政の諸原則は、第 1 に法律主義、第 2 に地方自治、第 3 に自主性の確保である。教育行政の作用は①規制、②

助成、③実施、に区分される。国レベルでは文部科学省が教育に関する事項を所管しているが、都道府県や市町村では首長と教育委員会に権限が分かれている。(詳細略)

(出題意図) 指定図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。国の役割、地方の役割がそれぞれにあり、学校教育が成り立っていることを理解していることを確認している。

4. (解答例) 今日の教育課程は、①文化遺産の継承・発展、②社会現実への対応、③子どもの求めの実現、の3つの基本原理を組み合わせて編成されている。②と③は親和性があり、学習指導要領は、①の教科課程と、②③の生活課程により編成されている。学校はこうした基本原理を踏まえ、学校教育目標を設定し、学校の教育課程を編成する。2017年版学習指導要領では、学校におけるカリキュラム・マネジメントが重視されており、教科等横断的な学習等の重要性が記載されている。(詳細略)

(出題意図) 推薦図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。

5. 推薦図書に基づき学びのための指導・支援のあり方についての基礎的な理解を問う問題である。学びにおける垂直的関係とは、熟達者(教師など)による指導を通して学習者の資質・能力の引き上げを行うことである。学びにおける水平的関係とは、学習者相互の対話的・協働的な活動(学び合い)を通して、資質・能力を伸ばすことである。子どもの成長・発達において両方の関係が不可欠であるのは、熟達者の指導や仲間との協働が「足場」となって、最近接発達領域に至ることが可能になるためである。

6. (解答例) 教育職員養成審議会及び中教審はこれまでに教員の資質能力に関する答申を何度か出している。例えば 1997 年の教育職員養成審議会は、教員に求められる資質能力を(1)いつの時代も教員に求められる資質能力、(2)今後特に教員に求められる具体的資質能力、(3)得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性、に区分している。2022 年の中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についてから現状を分析できる。生涯を通じて学び続ける教師、多様な専門性を有する教師が求められている。(詳細略)

(出題意図) 推薦図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。2022 年の中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についてから現状を分析できるとよい。

7. (出題意図) 本研究科のアドミッションポリシーの特に2の(7)にある国際バカロレアの教育の領域について教育学研究の基盤となる基礎的知識を持ち、これまでの既習事項や経験を活用しながら論じる出題への解答を通して、学修に臨むための知識・能力を評価するための出題である。

(解答例) 『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実際—不確実な時代を生き抜く力』にはこれまでの2次元的授業の考え方を超えて、リン・エリクソンの3次元的授業が説明されている。この考えに基づく授業の設計図は教師が教える授業から児童生徒が理解する授業を目指すものである。理解を促す授業では問いが重要であり、この問いが議論を

喚起する。学習者が教師や他者と議論することを通して理解を促す意味で、対話的な学びの形のひとつであるといえるのではないだろうか。

### ●乳幼児教育学研究コース

[設問]

1. 本設問は、指定テキストで述べられている「けんちゃんの絵日記」と言われるような「問い」のないエピソードではなく、「具体的」にエピソードを書くとはどのようなことかを理解しているかを問うものである。出来事の単なる羅列ではなく、保育者自身の問い、子どもの内面や意味づけにどのように注目していこうとするかの姿勢を評価する。自身の経験によるエピソードが具体的であることは高く評価される。
2. 本設問は、『保育原理』の第6章「保育と子育て支援」から出題されたものである。保育の場で行われる子育て支援の基本については、2018年施行の保育所保育指針の第4章「子育て支援」に記されているので、それを踏まえた回答が求められる。その冒頭には保育所における子育て支援は、「全ての子どもの健やかな育ちを実現」するために家庭との連携支援を行うと記されている。そして、そのポイントとして、信頼関係を基盤に自己決定を尊重すること、保護者が子育ての喜びを感じられる支援であること、関係機関との連携・協働が必要であることなどが記されているので、そのような観点が含まれていることが大切となる。
3. 乳幼児期の言葉の発達についての解説が必要。特に個人差と年齢に応じた特徴をどのように捉える必要があるかについて説明が必要。また身辺自立への対応についての詳細を検討する必要があり、睡眠や病気に対する心構えなどの点について詳細の説明が必要になる。躰と虐待に関して、どこに問題があるのか。どのような影響があるのか。この点についても重要な課題が含まれているので、明確にする事が問われている。

### Ⅲ期

#### 共通問題

(出題意図と解答例) 出題された英文は、小原國芳『全人教育論(改版)』(玉川大学出版部)に基づく。入試要項において本書は指定図書として明記され、事前に確認しておくことが指示されている。本問では、その前提に立ち、本文の内容を的確に理解しているかが問われる。

(1) 英文和訳が適切になされているかが評価基準となる。参考として指定図書の当該箇所(日本語原文)は次の通りである。「私達が、ホントに人生と、自然と芸術とを享樂し、味わい、生き得るために。せめて人らしき生活を生活し得るために。芸術教育を必要とします。芸術活動そのものの一面は実に創作ということである。創造ということである。自己表現ということであり、個性の發揮ということであります。個性のなきものに生命はない。そこには、自己の生活の統一、調整、総合が営まれねばなりません。それが完全になればなるほど完全なる自己表現、自己活躍が行われ、遺憾なき個性發揮となる。」

(2) 下線部の主張と対比されるものとしては、芸術活動を模倣として捉え、技巧の習得を重視する教育が挙げられる。例えば、明治期に見られた毛筆画手本を用いた図画教育では、手本を忠実に模写することが重視されていた。これに対して、小原は技巧の習得以上に、自由な表現や創作を重視した。また、小原は芸術活動において、創作のみならず鑑賞も重視していた。小原においては、創作と鑑賞は相互に支え合う両輪のように重要なものであった。以上の点について適切に説明できているかが評価基準となる。

#### 選択問題

##### ●教育学研究・初等教育研究・教師教育学研究コース

[設問]

1. (出題意図と解答例) 大正デモクラシーを背景に登場した自由主義的な大正新教育が取り上げられている。公立・私立の新学校や八大教育主張講演会などを通して、多様な新教育運動が展開された。このことを踏まえつつ、教師中心の教育を批判し、子どもを教育の主体として位置づけるとともに、人間全体の形成を重視した点が、その特徴となる。一方、教育方法上の改良が中心となり、当時の国家主義的な教育目的に対する批判や改善がほとんどなされなかった点に限界がみられたとされる。以上の点について適切に説明できているかが評価基準となる。なお、入試要項には、『教育原理(改訂第2版)』(玉川大学出版部)が推薦図書として明記されており、事前に確認しておくことが推奨されている。

2. 本設問は、「深い学び」の概念とその成立過程を理解しているかを問うものである。知識の暗記にとどまらず、既有知識との関連付けや省察、対話を通じて理解が深化するメカニズムを説明できるかを評価する。さらに、身近な教育現場の具体例を用いて、学習過

程を状況に即して論理的に記述する力や、理論と実践を結び付けて捉える力を重視する。

3. (解答例) 学校の設置者は国、地方公共団体、学校法人の三者がある。公立学校は都道府県や市町村等が設置する学校であるが、学校設置者が学校を管理するとともに、その費用を負担する(学校教育法第5条)。実際の学校管理は教育委員会が行うが、すべてのことを教育委員会が決定する訳ではなく、学校に一定の裁量を持たせている。近年は学校評議員制度や学校運営協議会等、保護者や地域住民等が学校の運営に参画する制度が整えられている。(詳細略)

(出題意図) 指定図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。校長のリーダーシップ、マネジメントサイクルといった、今日的な考え方を整理するとよい。

4. (解答例) 現行学習指導要領(2017年版)は、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等の資質能力の3つの柱を中心に設計されている。小中高校にこうした方針は共通している。児童生徒の発達段階を踏まえ、それぞれの段階に適切な教育を行うために、いくつかの相違点もある。例えば、小学校では標準授業時間は45分だが、中・高等学校では50分である。特別の教科である道徳は小・中学校にはあるが、高等学校にはない。また、高等学校では教科の中に科目が設定されている。(詳細略)

(出題意図) 指定図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。今日の学校教育の編成が自分なりに整理できるかどうかを問うている。

5. 推薦図書に基づき教育目標についての基礎的な理解を問うと共に、その理解を実際の教育活動を捉える視点として活用できるかを問う問題である。授業デザインの観点からは、教育目標は、教材・教具の選定や構成、学習過程や学習指導(学習活動も可)の開発を方向付けるものである。教育評価の観点からは、教育目標は、教育評価の基準と方法を規定する(規準性をもつ)ものである。これらを、自らにとって身近な教育現場での具体例を示しつつ論じていることが必要である。

6. (解答例) 戦前の教員養成は、師範学校を中心とした養成であった。戦後は大学における教員養成と開放制が基本原理となった。義務教育段階の学校については、国立大学の教員養成学部・大学を中心に教員養成が行われてきた。2008年には教職大学院が制度化され、教員養成の高度化が部分的に進められている。近年は私立大学出身者の教員採用の割合が高くなってきている。(詳細略)

(出題意図) 推薦図書をしっかり読み、理解しているかを問う問題である。2022年中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方についてから現状を分析できるとよい。

7. (出題意図) 本研究科のアドミッションポリシーの特に2の(7)にある国際バカロレアの教育の領域について教育学研究の基盤となる基礎的知識を持ち、これまでの既習事項や経験を活用しながら論じる出題への解答を通して、学修に臨むための知識・能力を評価するための出題である。

(解答例) 『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実際—不確実な時代を生

き抜く力』にはこれまでの2次元的授業の考え方を超えて、リン・エリクソンの3次元的授業が説明されている。様々な重要な要素として概念レンズ、探究、問いなどが挙げられているが、転移もまた重要な要素である。転移を促す関連付けや問題解決を創造することを通して理解を深める意味で深い学びの形のひとつであるといえるのではないだろうか。

### ●乳幼児教育学研究コース

[設問]

1. 本設問は、保育における発達観の変遷を理解し、ピアジェ発達論の特徴とその限界を踏まえたうえで、「脱・ピアジェ発達論」の視点を捉えられているかを問うものである。発達を固定的段階としてではなく、関係性や文化的文脈の中で捉える考え方を説明できるかが重要である。理論の違いを踏まえつつ、現代の保育観、子ども観への理解を深めているかは高く評価される。
2. 本設問は、『保育原理』の第8章「保育者の専門性と資質向上」から出題されたものである。そこには、保育者の専門性は、保育の営みの特性を踏まえ、アメリカの哲学者ショーンの概念を用い、「省察的実践者」の特性について述べられている。そのため、ここでは、ショーンのいう「省察的実践者」（「技術的熟達者」とは異なる）の特性について述べるとともに、日々の実践を通して自らのフレームを振り返り、対話し、状況と対話しながら保育を行う存在であることについての記述が求められている。
3. 日本における社会的養護の課題を明確にする必要がある。海外との比較や日本独自の課題もある。それらの比較を通じてなぜこのような課題が起こるのかについて考察することが求められる。また、里親制度の問題もかなり明確になっている。今後の見通し等を含めて、日本における社会的養護の方向性についての解説が必要。最終的には日本における家族のあり方を検討する必要があるので、この点についても言及することが問われている。